

旧愛知県第二尋常中学校講堂（針崎町） 平成 25 年 3 月 29 日登録

登録理由と概要

登録基準：造形の規範になっているもの

登録理由：岡崎市針崎町の住宅地東側に隣接し、西面して建つ。木造平屋建て、瓦葺きとする。外壁はドイツ下見板張りとし、外観の意匠は左右対称を基本としており、窓の上下などの位置に配した縦材、横材が浮かび上がる構成となっている。室内は天井を格天井とし、講堂としての格式の高さをうかがわせる。

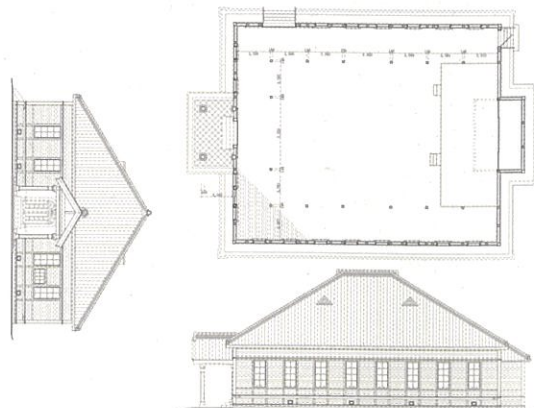
所在地：岡崎市針崎町字春咲 1 - 1

構造：木造平屋建て、（棧）瓦葺き

規模：347㎡（建築面積）

建築年代：明治30年（1897）竣工

大正14年（1925）移築



＜平・断面図＞

矩形の平面に、車寄せのつく正面玄関と奉安庫が突出する平面形を呈しています。

旧愛知県第二尋常中学校講堂の歴史

旧愛知県第二尋常中学校（以下、旧愛知二中）は明治政府の中学校令に基づく学校で、愛知県尋常中学校（明治29年設置）に次いで2番目に設置された、いわゆるナンバーズクールです。旧愛知二中は現在の愛知県立岡崎高等学校であり、長い歴史をとともに、これまで多くの偉人を輩出してきました。

明治29年に針崎村の勝鬨寺内の建物を仮校舎として開校しましたが、翌30年には戸崎村の新築校舎が完成し移転しました。この戸崎村の新校舎の建設時に講堂も整備されました。

大正13年には生徒数の増加等により、校地を現在の明大寺に移転しました。講堂は移築対象外となり、大正14年に日清紡績針崎工場に売却され、同工場内に移築されました。平成19年の針崎工場の閉鎖に伴い、平成22年岡崎市に建物が寄付され現在に至ります。

講堂単独の建物は明治期のものが数例確認されていますが、明治30年の建築は現存するなかでは最古のものです。当時は講堂と武道場が独立併存する時代であり、講堂に体育施設を一切加味していない当時の講堂の典型例といえます。また、かつて天皇皇后の御真影や教育勅語が納められていた奉安庫の存在は近代学校教育の時代性を物語っています。

＜講堂の名称の変遷＞

明治30年(1897) 愛知県第二尋常中学校講堂

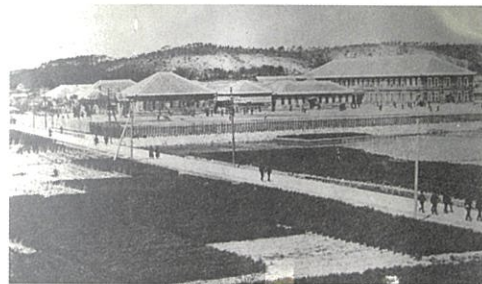
明治32年(1899) 愛知県第二中学校講堂

明治34年(1901) 愛知県立第二中学校講堂

大正11年(1922) 愛知県岡崎中学校講堂

大正14年(1925) 日清紡績針崎工場講堂

昭和23年(1948) 日清紡績針崎工場竜城実科高等女学校講堂



＜明治末期の学校全景＞



＜外観＞

ドイツ下見板張りを基本とし、ステイックスタイルが加味された外観は西洋古典建築の部分的な特徴がみられます。



＜小屋組＞

鉄筋や鉄骨が一般化する以前の時期であり、大空間確保のため西洋の小屋組であるトラス構造を採用しています。



＜独立柱と格天井＞

内部は格天井とし、独立柱上部の柱頭飾りを大斗の意匠とするなど、日本建築の特徴も見られます。